

科目名	社会・集団・家族心理学2			ナンバリング	PSY542	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	西脇陽子	担当教員					

授業の概要	家族療法の必要性を理解し、個人と家族との関係を考えていく力を身につける。又、家族を援助していく上での具体的・実践的な技法を演習やロールプレイ等を通して習得する。						
到達目標	1.家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解する。 2.個人が家族、集団から影響を受けて生じた不調について説明できる。 3.家族療法を行う際に家族に対し適切なアセスメントとアプローチを考える力を身につける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献講読、ならびに発表については事前準備が必要であり、不明な点がある場合は講義前に調べておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.家族関係を支援していく上で、多職種との連携の仕方を考える。 2.家族療法の代表的技法を演習やロールプレイの中で使うことができる。	1.家族関係を支援していく上で、必要に応じて多職種との連携をはかりながら、心理学的援助を考える。 2.家族療法の代表的技法を家族の抱える問題に応じてアセスメントし、演習やロールプレイの中で使うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		40%
宿題・授業外レポート	○	○			○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			30%

課題、評価のフィードバック	1.レジュメ作成、発表の際に適宜コメントする。 2.お互いに議論を交わし、疑問点についてはコメントする。 3.演習、ロールプレイの中で必要なフィードバックをする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	歴史的流れの中での家族心理学の位置付け	家族心理学、家族療法が、個人及び家族を支援する為に重要視されてきた歴史的背景を解説する。	
	第2回	家族システム理論	家族療法の基盤となっている家族システム理論を解説する。	
	第3回	家族を理解する4つの着眼点①	家族療法の理論と技法を解説する。 (構造的アプローチ、コミュニケーション的アプローチ)	
	第4回	家族を理解する4つの着眼点②	家族療法の理論と技法を解説する。 (多世代的アプローチ、ナラティブ的アプローチ)	
	第5回	家族ライフサイクル	個人ライフサイクルと家族ライフサイクルの関係、及び各段階の課題と危機管理を解説する。	
	第6回	夫婦関係の心理	家族の中での大黒柱である夫婦関係と、それゆえに生じる問題を解説する。	
	第7回	親子関係の心理	子どもの発達過程での親子関係の重要性について解説する。	
	第8回	現代の家族の抱えている問題①	自傷行為、自殺の背景としての親子関係、家族関係について解説する。	
	第9回	現代の家族の抱えている問題②	児童虐待、高齢者虐待と現代家族の抱えている問題について解説する。	
	第10回	教育現場での家族療法的視点	不登校、発達障がいを理解し、家族の抱えている問題を支援していく方法を説明する。	
	第11回	家族アセスメント	家族療法でのアセスメントを解説し、ロールプレイを通し体験する。	
	第12回	家族への心理教育的アプローチ	包括的アプローチについて解説し、更に代表的疾患に対する心理教育的アプローチを説明する。	
	第13回	精神障害者・発達障がい児、及び家族へのアプローチ	社会復帰に向けての認知行動療法を解説し、演習を通し体験する。	
	第14回	家族療法を模擬家族で体験する	現代家族の抱えている問題を模擬家族の中で家族療法を体験する。	
	第15回	第1回から第14回までの要点	整理を行う。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。適宜演習を実施する。		
授業外学習の指示		配布資料を中心に講義の内容を復習し理解を深める。不明な点については調べておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
参考URLなど	特に無し。
その他	